
あなたに出逢えた・・・意味

ma

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あなたに出逢えた・・・意味

【Nコード】

N4027BA

【作者名】

ma

【あらすじ】

『後悔なんてしたくない』誰でもそう思う言葉。私もその一人。でも、生きていくうえで後悔することは・・・大切なことなんだということを知った。そして、あなたに出逢えたこと。今はとてもうれしいと心から喜べる。

あの日（前書き）

これは、私の人生のほんの1ページです。

あの日

中学2年生の春。

私は彼と出会った。

彼の名前は、T a r o。

「優しい人」というのが第一印象。

そして、私は彼の笑顔が好きだった。笑い声も。

だから、彼に惹かれるのは時間の問題だったのかもしれない。

今思えば、とても初々しい出逢いかもしれない。

目が合うだけで、一日が幸せだと感じていたあの日。

「おはよう」と挨拶をするだけで、2日間はルンルンだったあの頃。

もし、彼T a r oと出逢っていなければ今の私はいないのかもしれない。

好き

あの頃、今のように携帯が普及していたら、
私たちは、ちゃんと「好き」だと伝え合うことができたのだろうか。

思春期だった私たち。

お互い気になる存在になっていたのに…

恥ずかしさが先にきて、お互いの気持ちはずれるばかりだった。

気持ちが伝わった、あの日の教室で

Taroは、「好きです。付き合ってください。」と

勇気を振り絞って、告白してくれた。

私は、「いいよ。」

それだけしか答えられなくて……。

もっと上手に答えていたら、今さら後悔なんてしなかったんだろう
なあ。

いつも、二人が思うこと。

思春期ってやつは……むかつくね（笑）

もう少し、恥ずかしいなんて思う気持ちが弱かったら？
今の私もTaroもいないんだろうね。

流れていく日々

付き合いだしてからの私たちは…

話をすることも上手にできなくなった。

告白なんてせずに、心に秘めていればよかったんだって後悔したこともしばしあった。

お互いにね。

付き合いだしてから、

クラスマッチ、夏休み、運動会、冬休み、クリスマス、修学旅行、バレンタインデー、ホワイトデー、春休み。

普通に時間は流れて行った。

何の進展もなく（笑）

周りの目が気になって…

話もできなくなって、ただクリスマスやバレンタインデー、ホワイトデーは

何かしたくて…。

友達にお願いして、プレゼントを渡してもらったけな（笑）

今の私だったら、自分で行動できるのにね。

おかしい関係。

クラスマッチ

私たちの学校では「クラスマッチ」というものがあった。

男子・女子でのスポーツ競技

男子はサッカー・バレー・バスケット

女子はバレー・テニス・バスケット

彼はサッカー

私はバレー

広い運動場で彼の姿を探すのがとても楽しかった。

いくつになっても好きな人を目で追うことは、
なんだか幸せを感じる。

勝敗の結果は、お互いのチームは
最下位でもなく、3位以上でもなく。

宙ぶらりんの位置だった。

あの頃って本当になんにでも頑張っていた気がする。

夏休み

結局…話もできないまま「夏休み」になり。

部活動があるため、たまに学校ですれ違うこともあった。

彼は、水泳部

私は、美術部

美術部の部室は、美術室。

美術室の窓からは、学校のプールが見える。

本当は近くで彼の姿を見たかった。

だけど、そんな恥ずかしいことなんてできなかったんだ、あの頃は。

だって、付き合いだして話ができなくなるぐらいだったし。

運動部って今もそうだけど、

区大会、市大会、県大会がある。

大会出場のための練習ってとても大変なんだろう。

彼は、大会出場のために練習を頑張っていた。

私自身、大会なんて経験はないので、未だによくわからない。

どれだけ、大変なのか…。

部活があるときは、美術室からいつも見ていた。

彼の泳ぐ姿がとてもキレイで。

泳ぎが得意ではない私には、

とてもまぶしかった。

好きだという気持ちだが、彼にばれていなければ
普通の友達で夏休みも話ができたのになって思ったこともあったけど…

これも

また、私にはいい思い出だ。

運動会

中学2年生の頃の運動会って、実はあんまり覚えていない。

彼が出る競技を見ることだけが楽しみだったから。

楽しみなのに…声をかけることができなかったことは、
今でも後悔している。

『頑張って』となぜ声をかけられなかったんだろう。

本当に嫌だ。

今思い出すだけでも、勇気のない自分にイライラしてしまう。

あー！ー、あの頃に戻れたら、
『頑張ってね』って言えるのに。

しかも、目を見て笑顔で！！

だけどね、時間は戻らないんだよね（笑）

だから、後悔せずに思ったことはやらないといけないって
勉強したんだよね。

冬休み

またまた、何の進展もなく（笑）

「冬休み」になってしまった。

冬休みにどこか出かけようって声をかけたかったのに…

結局それでもできず。

友達に、散々怒られた。

でもね、恥ずかしいし、変な噂を流されたくなくって。

あの頃、仲のいい友達は

私に隠れて、彼に「なんで話しかけないの」って怒ってくれていたらしい。

それを知ったのは、30歳を過ぎたころでした。

ただ、クリスマスと彼の誕生日は近かったので、やっぱりプレゼントをあげたかったから。

友達に付き合ってもらって、

マフラーを買いに行った。

結局自分で、渡すことはできなかったんだけど…

友達が彼に渡してくれた。

彼からもクリスマスプレゼントをもらった。

グレーのセーター。

すごく嬉しくて、友達に抱きついて泣いている私がいた。

今振り返ってみると、本当に笑えるけど、思春期らしいっていえばそうかもと思う。

修学旅行

私たちの修学旅行は、スキーでした。

だけど、私は初日に怪我をしてしまい…

スキーを一度もすることなく修学旅行を過ごしました。

この間、彼から

「修学旅行の時の怪我って気を引こうとして自分でやったの?」
といわれ、びっくり!!

なぜ、私がそんなことをしなくてはいけないのかわからず。

当時、いろんなことを言われていたようで…。

時効だろうと思い、彼は私に訪ねたようでした。

ただ、やっぱりあの頃は周りの人たちは、
あることないことをでたらめに言いふらしていたんだなと、
知った日でもありました。

だから、好きだとばれたことを後悔したけれど…
付き合いだしたことを後悔したけれど…
話ができなくなったことを悔やんだけれど…

今考えれば、変な噂を流されなくて良かったと思いました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4027ba/>

あなたに出逢えた・・・意味

2012年1月11日10時45分発行